

祝辞

本日、広島県警察学校初任科第253期生の卒業式が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

初任科第253期生の皆さん、御卒業誠におめでとうございます。

皆さんは、入校以来、警察官として必要な知識や技能の習得に励まれ、厳しい訓練に耐えて警察学校の全課程を無事終了され、本日、ここにめでたく卒業の時を迎えられました。

その輝かしい門出を心からお祝い申し上げます。また、今日まで皆さんの成長を見守ってこられた御家族をはじめ、熱心に皆さんの指導・教育に当たってこられた学校長、各教官及び関係各位に対しましても、心からお慶びを申し上げます。

本卒業式に広島地検検事正が出席し、祝辞を述べるのは3年ぶりのことであり、私自身、皆さんのりりしい姿を拝見しながら直接祝辞を述べるができることを心より嬉しく思っております。

さて、本日、皆さんは辞令を受け、県内各地に配属されることとなりますが、皆さんが所属することとなる地域課は、県民と直接接する点で、文字どおり警察活動の第一線と位置づけられます。皆さん一人一人が広島県警察の顔である、との自覚をもって職務に取り組まれることを

願っております。

さて、広島地方検察庁は、刑事司法、特に犯罪の捜査を担うという点で、皆さんと深いつながりがありますので、その観点から2点ほどお話をさせていただきたいと思います。

一つ目は、現在の犯罪情勢は厳しいということです。コロナ感染防止のための行動制限が緩和された昨年、20年ぶりに、県内の刑法犯認知件数は増加に転じながら、検挙件数は減少し、その結果検挙率は低下しました。具体的に見ると、殺人や強盗致死といった社会の耳目を集める凶悪事件の件数に大きな変動がない一方、特殊詐欺や児童虐待を含む知能犯や粗暴犯は大きく増加しています。IT技術は捜査機関に多大な恩恵をもたらしましたが、犯罪者は、それ以上に狡猾に捜査の手を逃れようとしています。県民の不安を払拭するためにも、警察と検察庁は知恵を出し合い、手間を惜しまず、一つ一つの事件を着実に解決しなければなりません。

二つ目は、皆さんは大きな責任を負っているということです。我々捜査機関は、迅速かつ適切な捜査を行って犯人を特定し、事案の真相を解明した上、適正な処罰を実現することにより、社会秩序の維持・回復を図るという責務を負っています。特に、皆さんが配属される地域課は、第一次捜査機関である警察の中でも初動捜査を担うことが多い部署で

す。初動捜査の善し悪しは事件解決に直結するものであり、その任務は誠に重たいものがあります。我々の仕事は成功して当たり前、失敗すれば県民の信頼を失いかねない厳しいものであります。肉体的に、そして精神的に辛いこともあろうかと思いますが、警察学校で多くを学んだ結果、今日を迎えることができたことを思い起し、勇気を持って職務に励んでいただきたいと思います。また、警察は組織として動いてこそ力を発揮します。困難に直面した際には、先輩や同僚を頼り、一緒に乗り越えてください。もちろん、我々検察庁職員も、皆さんとともに犯罪に立ち向かう覚悟です。

少し厳しいことも申し上げましたが、これは皆さんに大きな期待を有しているからです。広島地検の代表として、若く、柔軟な思考を持ち、力強く前に進む皆さんとともに、これから一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

結びに、広島県警察学校初任科第253期卒業生の皆さんの今後の御健勝と御活躍、そして広島県警察の益々の御発展を心から祈念し、私の祝辞といたします。

令和5年3月24日

広島地方検察庁検事正 瀬戸 毅